

2024年(令和6年)度

特定非営利活動法人 **子どもの森**

総 会 議 案 書



四季をまるごと体験ecoスクール(開校)13期生

日 時：2024年4月27日(土) 9時00分～

場 所：もりまなびや
森の学舎

総 会 次 第

1. 開会のことば
2. 議長選出
3. 議事録署名人任命
4. 資格審査報告
5. 報告事項
 - I. 2023年度活動経過報告
 - II. 、 、 活動決算報告
 - III. 監査報告
6. 議案
 - I. 2024年度活動方針（案）
 - II. 、 、 活動計画書（案）
7. 議長降壇
8. 閉会のことば

総 会	日 時	場 所
設立総会	平成 15 年 7 月 12 日（土）13:00	子どもの森事務所
第 2 回通常総会	平成 16 年 4 月 15 日（木）10:30	子どもの森事務所
臨時総会（第 3 回）	平成 16 年 11 月 19 日（金）19:30	クリエイティブセンター門川
第 4 回通常総会	平成 17 年 5 月 8 日（日）10:00	門川町商工コミュニティセンター APIO
第 5 回通常総会	平成 18 年 4 月 22 日（土）18:00	門川町中央公民館
第 6 回通常総会	平成 19 年 5 月 20 日（日）16:00	ガーデンベルズ延岡エメラルドの間
第 7 回通常総会	平成 20 年 5 月 17 日（土）10:00	（仮称）森の学舎（旧西門川小学校松瀬分校）
第 8 回通常総会	平成 21 年 4 月 25 日（土）10:00	森の学舎
第 9 回通常総会	平成 22 年 4 月 25 日（日）10:00	森の学舎
臨時総会（第 10 回）	平成 22 年 10 月 13 日（水）19:30	クリエイティブセンター門川
第 1 1 回通常総会	平成 23 年 4 月 24 日（日）9:30	森の学舎
第 1 2 回通常総会	平成 24 年 4 月 22 日（日）9:30	森の学舎
第 1 3 回通常総会	平成 25 年 5 月 6 日（月）9:30	森の学舎
第 1 4 回通常総会	平成 26 年 4 月 27 日（日）9:30	森の学舎
第 1 5 回通常総会	平成 27 年 4 月 29 日（水/祝）9:30	森の学舎
第 1 6 回通常総会	2016 年 4 月 29 日（金/祝）9:30	森の学舎
第 1 7 回通常総会	2017 年 4 月 29 日（土/祝）9:30	森の学舎
第 1 8 回通常総会	2018(平成 30)年 4 月 22 日（日）9:30	森の学舎
第 1 9 回通常総会	2019(平成 31)年 4 月 21 日（日）9:30	森の学舎
第 2 0 回通常総会	2020(令和 2)年 4 月 26 日（日）9:00	森の学舎
第 2 1 回通常総会	2021(令和 3)年 4 月 25 日（日）9:00	森の学舎
臨時総会（第 22 回）	2021(令和 3)年 6 月 27 日（日）13:00	森の学舎
第 2 3 回通常総会	2022(令和 4)年 4 月 24 日（日）9:00	森の学舎
第 2 4 回通常総会	2023(令和 5)年 4 月 23 日（日）9:00	森の学舎

報告事項Ⅰ. 2023年度活動経過報告

1. 事業の成果

- 5 ① 環境プログラム（春を楽しもう）を開催することで、里山等の自然体験交流と自然環境を理解してもらおうための啓発活動ができた。
- ② 県北地域の親子が、10カ月間を通して自然環境を考える体験型環境学習（四季をまるごと体験ecoスクール）で、より深く多面的に自然環境を理解してもらおう啓発活動ができた。
- 10 ③ 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働きを戻し、里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあり存在する魅力や価値を後世に繋ぐ活動ができた。
- ④ 環境文庫（森の学舎）にて、森の学舎の土日活用と環境問題全般を学習できる場を提供することができた。
- ⑤ Webページ、Facebook と Instagramにより、活動の情報発信と環境問題の啓発活動ができた。

15 2. 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

(1) 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

① 四季をまるごと体験ecoスクール（第13期）

20 食卓に並ぶパンが、麦畑作り・小麦粉作り、塩・バター・酵母、パン焼きまでの一連の作業を通して、たくさんの人の手を経て作られるのを知り、収穫した麦から自分たちでパン焼きをすることで食べ物の大切さを実感してもらえたと思います。また、輸入食材でなく地域で作られる食材の方が地球環境に低負荷であることを知り、生き物調べ、河川清掃を通して、自然環境を大事にする心を、体験を通して学び、それぞれ自分ができるecoなことを考えてもらうことができました。

25

- ・実施場所：森の学舎、ecoスクール麦畑、森の学舎周辺、五十鈴川
- ・参加者：14家族28人（内小学校3年生～6年生は15人）
- ・参加者学校：南方小学校、檜北小学校、東小学校、緑ヶ丘小学校、大王谷学園初等部、土々呂小学校
30 緑ヶ丘小学校、延岡小学校、岡富小学校、西小学校、日知屋小学校、財光寺南小学校
富高小学校

・スタッフ：6人

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市教育委員会、日向市教育委員会、門川町教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

35 35 内容：地域の小学生とその保護者に対して、四季を通した自然体験や農業体験から自然の大切さを理解し将来の自然環境の守り手に育ててもらおうために、10カ月の期間を通して同一参加者で下記のプログラムを実施しました。

日時	参加者 (子ども)	スタッフ	プログラム
第1回(開校) 5月21日 9:30-15:00	21 (11) 見学者1	4	開校式 ・学校名や学年などの自己紹介。 ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム（はじめまして、色合わせ、カモフラージュ、フィールドビンゴ）。 麦刈り ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり。 ・刈りとった麦の稲架かけ。 ・（麦刈りが早く終わったので）五十鈴川で川虫の調査。

第2回 5月28日 9:30-15:00	26 (14)	6	<p>脱穀</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で脱穀。 <p>風選</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱穀した麦のもみ擦り。 ・唐箕を使って脱稈（だっぶ）。 <p>麦畑用堆肥づくり（ダンボールコンポスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回におこなう麦畑作りで使用する堆肥作り。（ダンボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、家庭での堆肥の作りを学ぶ）
第3回 7月30日 13:00-15:30	7 (4) 見学者2	4	<p>河川清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の学舎の前を流れている五十鈴川で、川岸のゴミ拾い。 <p>川の生き物調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの種の命の大切さを学び豊かな自然環境が、動植物の食物連鎖や生態系に必要なものであることを学ぶための川虫や魚等の水生動物の観察。 <p>※午前開催を予定していたが天気が雷雨であったため、午後に延期開催した。</p>
第4回 9月10日 9:30-14:00	22 (12)	5	<p>森の学舎グラウンドと森の学舎周辺の土手や田んぼ畑での昆虫の観察と写真撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新開孝さんから昆虫の名前や生態等を聞きながら昆虫採集（当プログラムでは写真を撮ったら直ぐに自然に戻す）や昆虫観察（必要に応じては昆虫を詳しく観察できるレンズ付きガラス容器に入れ）と写真撮影。 <p>ソーラークッキング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光を集めると、高温になること（目玉焼きで実験）を知り、CO₂の発生が0%であることに気づく。（CO₂の発生は、地球の温暖化防止には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる）
第5回 11月12日 9:30-15:00	9 (5)	6	<p>畑の耕うん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土起こし器を使って土をやわらかくしてドクダミの根や雑草を除去。 <p>麦播き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者でロープを張り筋を作って、その筋に沿って麦の種蒔き。
第6回 12月17日 9:30-15:20	14 (8)	5	<p>塩作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。 ・塩づくりの副産物であるにがりも採取。 ・採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。 <p>海の豊かさを守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習。 <p>麦踏み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏み。
第7回 2024年 1月21日 9:30-15:00	24 (13)	5	<p>酵母作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パン作りで必要となる酵母の素（イチゴと砂糖と水）を食品瓶に仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる） <p>陸の豊かさを守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。 <p>麦挽き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。 <p>掃除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。

第8回(閉校)	17 (9) 見学者1	6	バター作り ・生クリームと牛乳で、パン生地に練りこむバターを作る。 パン作り ・作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 パン焼き、感想文 ・パン焼きする順番に2次発酵してパン釜でパン焼き。 ・パン焼きの順番まで、感想文書き。 ・焼いたパンを試食。 閉校式 ・修了証の授与。
---------	-------------------	---	--

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や準備等を下記の通りおこないました。

日付	スタッフ	内容
5月20日	3	麦畑周辺の草刈り、ネイチャーゲームの下見
5月27日	3	脱穀機と千歯こきの準備
7月29日	4	河川清掃の下見と準備
9月2日	4	グランド一部の草刈とビオトープ内に生えているチガヤを除去、お地蔵さんの森の整備と樹木プレートの修理
9月9日	2	昆虫観察指導者の新開さんと下見
10月23日	2	海水汲み
11月4日	4	畑全体の1/2の土起こしと草根除去、牡蠣殻石灰と牛糞を播いて耕うん、麦播きの筋の目印テープを張るための支柱作り
1月8日	2	被害を防ぐため、防獣ライトの設置・麦畑の出入口への網設置・ラジオで毎夜音だしの三つを試行
1月13日	4	石臼と石臼台の水洗い、石臼の目立てと廻し取っ手と臼上下をつなぐ芯棒の修理

② 休耕田復活プロジェクト

5 耕作放棄の田んぼを復活させて田んぼの働き（作物が育ちやすい土作り、水をきれいにする、上流の森林の豊かな資源の有効活用、周りの気温や湿度を守る、地下水の量を一定に保つ、洪水や土砂崩れを防ぐ、いろいろな生物が住む「家」の働き）を戻し、里山の自然景観を守り、存在する魅力や価値を後世に繋いで行く活動です。

10 一昨年までの2年間、松瀬地区の休耕田を田んぼに戻してきましたが、昨年度は田んぼの持ち主が田んぼを貸すことを拒んだため、2024年度から取り組む予定だった北郷黒木地区の休耕田を、1年前倒して復活しました。北郷黒木地区の休耕田も松瀬の休耕田と同じように、セイタカアワダチソウ等の背の高い雑草が増殖しはじめ、著しく自然景観が悪くなっていました。

15 これまでと同じように、休耕田を元の田んぼに戻し無農薬で人の手作業による米作り体験の場（作付け約120㎡）としました。前年と同様に参加者を募って、田植え（もち米）、草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行きました。地元農家の方の協力を受けて、12人の参加者と12人のボランティア及びスタッフで活動を進めました。

- ・実施場所：北郷黒木地区の耕作放棄の田んぼ
- ・助成等：九州ろうきんNPO助成
- ・実施日と内容

20

日付	参加者	スタッフ・ボランティア	内容
2月～6月		6	・草刈り⇒田おこし⇒田んぼ全体を平らに均す
6月11日	12	5	・苗間隔30cm×30cmで、55行×24列で後ろ向きの1本植え ・品種は、もち米「マンゲツモチ」 ・田んぼの役割の学習 ・取材：夕刊デイリー
7月9日	10	8	・春の田んぼの学習 ・フィールドビンゴを田んぼで実施 ・田車、除草器、簡易除草器を使つての草取り
7月23日	10	6	・夏の田んぼの学習 ・田んぼの環境調査（田んぼに生息している動物を網ですくって観察） ・田んぼの生えているコナギを調理（スタッフで天ぷら・和え物・炒め物・焼きそば）して、参加者とボランティアの全員で食べる ・器具を使わない手による草取り
9月30日		3	・はさ掛けの準備、田んぼの草取り
10月1日	3	5	・稲刈り⇒稲架（はさ）かけ
10月14日		4	・田んぼでの脱穀準備（日陰用のテントを張って、足踏み脱穀機の米飛び散り防止カバー設定）
10月15日	6	10	・秋の田んぼの学習 ・脱穀機2台と唐箕使つての脱穀
12月3日	14 オブ1	5	・冬の田んぼの学習 ・餅つきと餅まるめ後、海苔・きな粉・大根おろし・あずき・栗あん と醤油・蜂蜜・ポン酢等と一緒に餅を食した
1月6日		3	来年度復元予定の耕作放棄地をマイクロショベルカーで掘削し、掘りあげた土は、周辺の畦になる箇所に盛土
3月10日	2	4	

③ 椎茸ホダ木の管理（ほだ場作業）

2019年度の四季をまるごと体験e c oスクールでコマ打ち（植菌）した原木に、少量の椎茸が発生し収穫をしました。原木が朽ちてしまっているため、今年度からの椎茸の収穫は見込めません。

5

（2）中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

① 子どもの森1号地（杉と広葉樹の混交林）

2006年3月に400本を植樹した子どもの森1号地は、苗木も大きくなり下草刈の必要がなくなり、センダンの樹高は3mをはるかに超え、その他の樹木も人間の背丈よりもすいぶんと高くなっています。現在は、自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

10

② GOCANの森（門川高校演習林災害跡の再生）

門川高校生と協働して実施した森林の再生活動（2007年3月に植樹、2013年3月に補植樹）をした門川高校実習林の苗木が大きくなり下草刈の必要がなく、ケヤキの樹高は3m以上になり、ヤマザクラは花を咲かせています。現在は、子どもの森1号地と同様に自然本来の再生能力に委ね人による手入れを行っていません。

15

③ 妖精の森（放置竹林の広葉樹林への復元活動）

手入れがされず放置されている竹林（森の学舎裏の竹林）を、雑木林に再生し人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、2009年度から継続して竹の伐採を続けてきました。これまで伐採した竹林の面積は約0.2haを超え予定していた範囲の伐採は、2016年度に終了しています。2023年度は、3月9日に伐採跡地に生えていた竹の伐採を行いました。

20

④ お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

5 放置されている里山を整備して体験型環境学習の広場作りを、2019年から実施しています。森林の体験型環境学習のため広場を整備し、水辺の体験型環境学習で活用するために松瀬川（五十鈴川支流）への昇降道も整備しています。

（3）地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

① 野草を活用した自然体験交流（春を楽しもう）

10 自然を親しみ、自然の豊かさ・大切さを学ぶ活動です。山菜・野草観察を食べる分だけ摘んで参加者とスタッフが一緒に調理していきます。自分の足元から春を感じ、自然環境を考えていきます。

野山に限らず身近なところにも食べられる野草が自生していることを知り、緊急時でも食料の確保ができることも体感します。

15 朝から終日まで雨が降っていて、参加キャンセルも多くあり、やや寂しい感じがありました。少ない参加者でゆっくりとじっくりと観察と調理を進めることができました。

なお、指導をお願いしていた成迫平五郎氏が、新型コロナに感染したため参加できず、急遽横山純子理事が、野草の観察を担当しました。

20 ・活動の目的：人間を含む生き物すべてが自然の中で育まれているので、地球環境を大事にする気持ちを高めて欲しい。そのために、春になって野草の芽吹きに触れ自然環境に関心・興味を持ってもらうプログラムとして、野草の収穫と調理して食する活動を実施する。

25 ・活動の成果：子どもたちとその保護者が、ふだんの生活では気づくことができない身近かな食べることができる野草の観察と調理して食するを通して、地球規模ではなく自分の足元にある自然の恩恵と大切さを実感できた。そして、自然環境を守るために必要な自分ができることを考えるきっかけづくりができた。自然を大切に守ろうと思う心の芽生えは、子どもたちの健全育成に大きな影響をあたえることができた。

・実施日：2024年3月24日

・参加者：子ども7人（内幼児2人）、保護者7人

30 ・スタッフ：7人

・講師：横山純子（会員、宮崎県環境保全アドバイザー）

・後援：宮崎県、宮崎県教育委員会

・助成等：子どもゆめ基金

・内容：野草の観察と収穫、野草調理（餃子、天ぷら、白和え、おひたし、ピザ）

35 ・準備(3/23)：会場になる教室の掃除、竹林整備で伐採した竹を活用した手水舎（てみずしゃ）制作、管理棟と教室棟の渡りの修理、他

（4）地場産業の振興、街づくり、人づくり

40 地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築116年の古民家を再生し活用するための費用を調達するために、認定NPO法人の申請をしました。

45 この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいます。再生が可能なのかを業者による家屋調査を実施し、再生可能であるとの調査結果がでました。また、前住人がそのままに放置していた荷物や家具のかたづけと、朽ちて崩れていた納屋の撤去も終了しました。一昨年から本格的に古民家再生を開始できる状態になっています。

しかし、諸理由により資金の調達ができずに、昨年度は何もできませんでした。今年度は、何らかの補助金とクラウドファンディングを模索していきたいと思えます。

（5）市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

50

① 地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援

食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、農村開発を支え環境を守ることができます。一般参加者や地域住民と一緒に耕作放棄された田畑を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組への気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させることができます。また、地域活性化のために6次産業を生み出し、生産した農産物の一部は生活困窮者の支援にあてることもできます。

耕作放棄地の復元作業において身体の負担をできるだけ軽減するために、マイクロショベルカーを連合愛のカンパで購入することができました。当初は、休耕田復活プロジェクトでマイクロショベルカーを活用する予定でしたが、連合愛のカンパの助成決定タイミングとマイクロショベルカー納期時期との関係から、マイクロショベルカーが12月末に納車されました。

まずは、次年度計画している休耕田の復元でマイクロショベルカーが使用できました。

耕作放棄された田んぼは、丈の高い雑草が密生し、小さな木もまばらに生え、かつての田んぼの面影などまったく感じられない荒地となっています。まずは生い茂るセイタカアワダチソウなどの雑草を刈り払うところから始め、低木を切り倒して伐根もしなければなりません。草刈り機やチェーンソー等を使って、草刈りや低木の切り倒しを進めていきました。整地された休耕田は、休耕田復活プロジェクトで、活用しています。

(6) 活動の情報発信・啓発のための事業

① SNSの運用

・実施時期：4月～2024年3月

・概要：子どもの森のすべての活動と自然環境啓発等を、月平均3回程度のWebページ更新、facebookへは年間13回、instagramへは年間12回の投稿・情報発信をおこないました。

② 機関紙の発行

発行時期が遅れましたが、A4で12ページの子どもの森通信20号を12月に発行できました。

③ 案内チラシの作成

・実施時期：各プログラムの開催1カ月～2カ月前

・概要：宮崎県や宮崎県教育委員会等の後援をもらい、それぞれのプログラムの参加者募集チラシを作成し、主に県北の図書館や近隣のスーパー等に置いていただきました。また、Webページからもダウンロードできるようにもしました。他の参加者募集の方法として、SNSの活用と地元新聞社（夕刊デイリー、宮崎日々新聞）への掲載もお願いしました。

四季をまるごと体験e c oスクールの参加者募集チラシは、延岡市・日向市・門川町の教育委員会から後援をもらい、県北一円の小学校の3年生から6年生に、延岡市・日向市・門川町の教育委員会を經由して約7500部を配布しました。美郷町の小学校は、持ち込みをしました。

昨年度は、初めて地元フリーペーパーのK I R E I（2024年2月号と3月号）に、「春を楽しもう」の広告を掲載しました。

(7) その他目的を達成するために必要な事業

① 黄色いレシートキャンペーン（8月11日）参加者：横山理事長、横山純子理事、加納理事

イオン日向店にて、キャンペーンの普及発展と子どもの森のPRをおこないました。今回でキャンペーンの参加が11回目となりました。支援を続けてもらっている店舗への感謝と、お客様に黄色いレシートを子どもの森に投函してもらい、子どもの森の活動を地域に知ってもらうのが目的です。

レシート金額の1%相当額が、活動のために必要な消耗品などの商品がイオン・グループ店舗において寄贈されます。子どもの森は、2006年から18年間で、約129万円を寄贈してもらっています。イオンの黄色いレシートで、子どもの森の応援をしてくださっている皆様に感謝します。

② 森の学舎の整備

森の学舎グラウンドと周辺の草刈りを、5月1日、2日、3日、4日、7月2日、4日も、延べ21人の参加者（会員）で実施しました。

5

③ 森の学舎の訪問者

年間に22人の訪問者があり、横山理事が、必要に応じて訪問者に子どもの森と森の学舎の説明をおこないました。少ない訪問者ではありましたが、子どもの森の理解を進めることができました。

10

④ ビオトープ

ヘイケホタルが生息しており5月末になるとホタルが舞うのを見ることができました。地区の集会場の水タンクでオーバーフローした水を引いてきていますので、大雨等が原因で水源からの水が止まり、水が流れてこないことが数回ありました。その都度、水源を見に行ったり、地区の関係者の方に連絡をして、対処してきました。

15

3. 寄附金・助成金等

(1) 子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）

20

① 四季をまるごと体験e c oスクール（第13期）の事業費577.5千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が140.0千円と447.9千円の助成を受ける予定です。

② 春を楽しもうの事業費113.9千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が13.0千円と112.8千円の助成を受ける予定です。

25

(2) 九州ろうきんNPO助成

休耕田復活プロジェクトの事業費186.1千円（ボランティア評価除く）に対して、参加費収入が18.0千円と350.0千円の助成を受けました。

30

(3) 連合愛のカンパ

休耕田復活プロジェクトと併用で進めている「地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援」で休耕田復元や原野整備を軽減するためのマイクロショベルカー購入費（1,999,999円）に対して、400.0千円の助成を受けました。他、費用として8.4千円の支出がありました。

35

(4) イオン黄色いレシートキャンペーン

黄色いレシートキャンペーンの投函箱を、イオン日向店に設置しています。投函されたレシート金額の1%が団体に商品券で寄贈されます。2023年度は、21.6千円の商品券が寄贈されました。

40

(5) ろうきんNPO寄附

預金者が応援したいNPO法人へ、希望する金額を希望する日に、預金者に代わって普通預金口座から寄附先団体の口座に自動振替する制度で、1回の寄附額は100円以上（100円単位）です。3名の方から計12.0千円の寄附がありました。

45

(6) 他寄附

横山理事長の各プログラムでの人件費他（49.0千円）と、鶴戸副理事長から1.0千円の寄附がありました。

4. その他

50

(1) みやざき森づくりボランティア協議会

横山理事長が、協議会の理事に就任しています。6月18日に総会が開催され、横山理事長と鶴戸副理事長が出席しました。この総会から、横山理事長が、協議会の副会長に選任されました。

①7月16日に椿ボランティア会（椿山公園）による椿と紫陽花の挿し木講習会、②8月20日に口

キシーヒルフィールドでの椎茸原木の本伏せ、③10月22日に森の学舎での救命救急法の研修会が開催されました。

①挿し木講習会には、横山理事長と横山理事、②椎茸原木の本伏せには、横山理事長と横山理事・加納理事、③救命救急法の研修会には、横山理事長と横山理事・加納理事・井澤理事が参加しています。

(2) 認定NPOの取得

多額の費用が必要となる活動の資金調達を目的としての認定NPOの取得について、2020年8月28日付けで取得が完了しました。認定有効期限は、2025（令和7）年8月27日までの5年間になります。

認定NPO法人に寄付をすると、寄付額が所得税の寄附金控除になりますので、寄付を集めやすい環境が整っています。

(3) 九州の食育のひろば

九州農政局ホームページの「九州の食育のひろば」に、「四季をまるごと体験ecoスクール（麦の一連の活動）」と「休耕田復活プロジェクト」が食育の一環として紹介されました。

3月7日に、活動内容の聞き取りに、担当者2名が森の学舎に訪問しました。聞き取りは、横山理事が対応しました。

(<https://www.maff.go.jp/kyusyu/syohianzen/hiroba/island/img/190510.html>)

(4) 助成元団体への報告発表

① 連合愛のキャンパ

11月21日に、日本労働組合総連合会宮崎県連合会（連合宮崎）による「連合愛のキャンパ」の助成式がおこなわれました。横山理事が出席し、贈呈のお礼、労働組合員の助成金原資の拠出に感謝し、次年度以降も活動を継続していきたいと報告発表をおこないました。

助成団体：こども未来応援団体タテヨコナナメ、宮崎県わけもん防災ネットワーク、NPO法人フードバンク日向、宮崎高校生平和活動支援センター、NPO法人子どもの森、NPO法人ぼくちへおいでよ

② 九州ろうきんNPO助成フォーラム

2月9日に、2023年度に受けた「九州ろうきんNPO助成」の活動団体発表と次年度助成先への助成金贈与のフォーラムに参加しました。横山理事長が、助成を受けて実施した「休耕田復元プロジェクト」の報告を行いました。

2023年度助成団体：特定非営利活動法人子どもの森、特定非営利活動法人子ども未来STELLA、紙芝居まねきねこの会、特定非営利活動法人ぼくちへおいでよ、一般社団法人ハートスペースみやざき、NPO法人SUNクラブひまわり

(5) 理事会

日時	場所	参加理事数	内容
4月17日 19:30~	横山理事長宅	4人	総会議案書の読み合わせ 総会の参加者確認 ecoスクールの準備とGW（4月29日~5月7日）の活動確認
5月20日 19:30~	森の学舎	6人	※この理事会より新理事構成となる 理事長選任
7月30日 16:00~	森の学舎	4人	休耕田復活プロジェクトの人件費と交通費 次年度休耕田復活プロジェクト 四季をまるごと体験ecoスクールの人件費
12月3日 16:00~	森の学舎	4人	マイクロシヨベルカー購入資金

※詳細は、Web上の議事録確認。

2023年度事業経過一覧

実施日		活動名	内容/備考
4月	8(土)	会計監査	
	17(月)	理事会	
	23(日)	総会	
5月	5/1(月)~4(木)	森の学舎整備	草刈り、畦作り、用水路整備、麦畑草取り
	20(土)	「eco スクール」準備	①の準備
		理事会	
	21(日)	①eco スクール	開校式、麦刈り
	27(土)	「eco スクール」準備	②の準備
28(日)	②eco スクール	麦脱穀、堆肥作り	
6月	3(土), 4(日), 10(土)	「田んぼ PRO」準備	①の準備
	11(日)	①休耕田復活プロ	田植え
7月	2(日), 4(火)	森の学舎整備	草刈り
	9(日)	②田んぼ PRO	ネイチャーゲーム、草取り
	24(日)	③田んぼ PRO	田んぼの環境調査、草取り
	29(土)	「eco スクール」準備	③の準備
	30(日)	③eco スクール	河川清掃、川あそび、川の生き物調査
理事会			
8月	11(金)	黄色いシートとヒムカイザー	横山理事長、加納理事、横山理事
9月	2(土)	お地蔵さんの森	「eco スクール」準備
	10(日)	④eco スクール	昆虫観察と写真撮影、ソーラークッキング
	30(土)	「田んぼ PRO」準備	④の準備
10月	1(日)	④田んぼ PRO	稲刈り
	14(土)	「田んぼ PRO」準備	⑤の準備
	15(日)	⑤田んぼ PRO	脱穀
11月	4(土)	「eco スクール」準備	⑤の準備
	12(日)	⑤eco スクール	麦畑づくり、麦播き
	21(火)	連合愛のカンパ贈呈	横山理事参加
12月	3(日)	⑥田んぼ PRO	収穫祭(餅つき)
		理事会	
	17(日)	⑥eco スクール	海の豊かさを守ろう、塩作り、麦踏み
1月	6(土)	休耕田復元	マイクロシヨベルカー
	13(土)	「eco スクール」準備	⑦の準備
	21(日)	⑦eco スクール	陸の豊かさも守ろう、イチゴ酵母作り、麦踏み
2月	9(金)	九州ろうきん NPO 助成フォーラム	活動発表(横山理事長、横山理事が出席)
	18(日)	⑧eco スクール	パン作り、閉校
3月	9(土)	妖精の森整備	竹伐採
	10(日)	休耕田の復活	休耕田土地掘と畦盛、伐根
	23(土)	「春をたのしもう」準備	野草の群生確認
	24(日)	春をたのしもう	野草観察・調理

報告事項Ⅱ. 2023年度活動決算報告

2023年度 特定非営利活動に係る活動計算書
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	57,000		11人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	5,000	62,000	1人×5,000 2
2. 受取寄附金			
受取寄附金	93,662		イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
ボランティア受入評価益	587,467	681,129	
3. 受取助成金等			
受取助成金		1,310,867	子どもゆめ基金、九州ろうきんNPO助成、連合愛のキャンパ
4. 事業収益			
自主事業収益		191,400	四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト
5. その他収益			
雑収入		5,009	発電機売却、預金利息 他
経常収益計		2,250,405	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	253,367		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト
ボランティア評価費用	587,467		各プログラム(宮崎県の最低賃金にて評価)
人件費計	840,834		
(2)その他経費			
修繕費	15,572		森の学舎、休耕田復活プロジェクト
諸謝金	79,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう
印刷製本費	34,306		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	44,000		春を楽しもう(KIREI)
旅費交通費	128,790		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト
通信運搬費	13,772		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう
消耗品費	307,535		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト 他
損害保険料	18,548		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復活プロジェクト
減価償却費	133,199		マイクロシヨベルカー
その他経費計	774,722		
事業費計		1,615,556	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
旅費交通費	11,800		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	51,894		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	437		文房具 他
修繕費	6,000		メガホン、チップシャーレッダーのタイヤ、自走草刈機エアークリーナ
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	4,292		総会
租税公課	8,650		印紙(労金NPOサポートローン、助成金申請)
施設管理費	155,610		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	5,075		昨年度子どもゆめ基金助成金減額
支払利息	3,645		マイクロシヨベルカー借入金
その他経費計	250,403		
管理費計		250,403	
経常費用計		1,865,959	
当期正味財産増減額		384,446	
前期繰越正味財産額		1,453,282	
次期繰越正味財産額		1,837,728	

ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。
管理費のボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、計上していない。

2023年度 事業別活動計算書

科目	ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復活プロジェクト	地域コミュニティによる耕作放棄地の復元	森林整備	森の学舎整備(ピオトープを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	57,000	57,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
2. 受取寄附金									
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	93,662	93,662
ボランティア受入評価益	157,332	40,408	231,039		0	158,688	587,467	95,150	682,617
3. 受取助成金等									
受取助成金	447,973	112,894	350,000	400,000	0	0	1,310,867	--	1,310,867
4. 事業収益									
自主事業収益	140,000	13,000	18,000	--	--	--	171,000	20,400	191,400
5. その他収益									
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	5,009	5,009
経常収益計	745,305	166,302	599,039	400,000	0	158,688	2,069,334	276,221	2,345,555
II 経常費用									
(1)人件費									
賃金	208,367	17,000	28,000	--	--	--	253,367	--	253,367
ボランティア評価費用	157,332	40,408	231,039	0	0	158,688	587,467	95,150	682,617
人件費計	365,699	57,408	259,039	0	0	158,688	840,834	95,150	935,984
(2)その他経費									
修繕費	--	--	10,002	--	--	5,570	15,572	6,000	21,572
諸謝金	63,000	13,000	3,000	--	--	--	79,000	--	79,000
印刷製本費	34,306	--	--	--	--	--	34,306	--	34,306
旅費交通費	93,425	9,775	25,590	--	--	--	128,790	11,800	140,590
通信運搬費	9,666	4,106	--	--	--	--	13,772	51,894	65,666
消耗品費	160,155	24,533	111,167	8,450	0	3,230	307,535	437	307,972
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	4,292	4,292
損害保険料	8,624	1,500	8,424	--	--	--	18,548	0	18,548
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	8,650	8,650
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	155,610	155,610
広告宣伝費	--	44,000	--	--	--	--	44,000	--	44,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	5,075	5,075
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	3,645	3,645
減価償却費	--	--	--	133,199	--	--	133,199	0	133,199
その他経費計	369,176	96,914	158,183	141,649	0	8,800	774,722	250,403	1,025,125
経常費用計	734,875	154,322	417,222	141,649	0	167,488	1,615,556	345,553	1,961,109
当期経常増減額	10,430	11,980	181,817	258,351	0	△ 8,800	453,778	△ 69,332	384,446

※ボランティア受入評価益とボランティア評価費用は、宮崎県の最低賃金にて計上している。



休耕田復活プロジェクト

特定非営利活動に係る貸借対照表（2024年3月31日現在）

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	6,365		
普通預金	917,795		
未収金	560,867		
前払金	27,085		
流動資産合計		1,512,112	
2 固定資産			
建設仮		379,500	
備品	3,284,999		
減価償却累計額	△2,218,196	1,066,803	
固定資産合計		1,446,303	
資産合計			2,958,415
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	16,510		
前受金	0		
未払金	4,188		
借入金	1,099,989		
流動負債合計		1,120,687	
負債合計			1,120,687
III 正味財産の部			
基本金	1,453,282		
当期正味財産増加額(減少額)	384,446		
正味財産合計			1,837,728
負債及び正味財産合計			2,958,415

2023年度 特定非営利活動に係る財産目録（2024年3月31日現在）

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手元有高	6,365	
普通預金	宮崎太陽銀行門川支店	200,244	
普通預金	九州ろうきん延岡支店	714,540	
普通預金	ゆうちょ	3,011	
未収金	子どもゆめ基金	560,867	
前払金	事務局電話代(金子幸一)	27,085	
流動資産合計			1,512,112
2 固定資産			
建設仮	古民家再生	379,500	
機械及び装置	チャパ-シュレッダ- (新ダ'イPCSE50-W)	253,050	
	チャパ-シュレッダ- (大橋GS121GB)	1,330,350	
	耕うん機 (HONDAビ'アツ)	102,600	
	簡易炭窯 (テキT105型)	399,000	
	マイクロシヨバ'ルカ- (コマツPC01)	1,199,999	
減価償却累計額		△2,218,196	1,066,803
固定資産合計			1,446,303
資産合計			2,958,415
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	寄附金、九州ろうきんNPO助成フォーラム交通費	16,510	
前受金		0	
未払金	休耕田復活プロジェクトの交通費、2月分携帯代	4,188	
借入金	マイクロシヨバ'ルカ-購入資金	1,099,989	
流動負債合計		1,120,687	
負債合計			1,120,687
正味財産(注)			1,837,728

(注) 正味財産は「資産合計」より「負債合計」を減じた金額を記載する。
これが登記すべき「資産の総額」である。

上記財産目録に相違ない。

特定非営利活動法人 子どもの森

監査

佐藤 伸光



報告事項Ⅲ. 監査報告

監査報告書

2023年4月1日から2024年3月31日までの理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、以下の通り報告します。

監査の結果

- この法人の会計の方法及びその結果は、相当であると認めます。
- 財産目録は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 貸借対照表は、この法人の財産の状況その他の事情に照らし指摘すべき事項はありません。
- 活動計算書は、法令及び定款に従い、この法人の状況を正しく示していると認めます。

2024年4月7日

特定非営利活動法人 子どもの森

監事 佐藤 伸光 



森の学舎整備



春を楽しもう

議案Ⅰ. 2024年度活動方針(案)

1. 農林漁業などの産業体験や里山等の自然体験交流事業

5 (1) 子どもと保護者の環境教室(四季をまるごと体験e c oスクール)

今年度も、地域の小学生(3年生以上)及び保護者に対して、パン作りによる食と環境を切り口に、同一の参加者が、年間(四季)を通して、四季折々の自然環境を遊びや観察等から学び、麦栽培等の農業体験、そして農業体験を通して自分たちで作った食材料からパン作りを経験します。輸入に頼らなくても食が可能であることを実感し、食べ残しを極力少なくすることや食品の輸入による過大なエネルギーを減少させることで、地球環境への負荷を少なくした生活を実践してもらうための気づきを促します。他に、自然環境を遊びや観察等の原体験を通して、中山間地域である里山の自然環境の大切さと保全の必要性を学習するプログラムを提供します。

- 15
- ・参加者(予定): 25人(県北地域の小学生3年生から6年生15人と保護者10人)
 - ・場 所: 森の学舎及び周辺
 - ・助 成: 子どもゆめ基金
 - ・外部講師: 新開孝氏(昆虫観察と昆虫写真撮影)※昆虫写真家

5月18日(土)《開校(第1回)》9:30~15:00

主テーマ: 輸入に頼っている小麦を地産することで、輸送に係るエネルギーを減らすことができることを学ぶ。

- ・学校名や学年、活動に参加した目的などの自己紹介。
- ・初対面である参加者同士が早く仲良くなるためのネイチャーゲーム。
- ・前年度に種まきをして育った麦の刈りとり。
- ・刈りとった麦の稲架かけ。

20

5月25日(土)《第2回》9:30~15:30

主なテーマ: 輸入に頼っている小麦を地産することで、輸送に係るエネルギーを減らすことができることを学ぶ。ごみゼロを目指すライフスタイル「zero waste life(ゼロ・ウェイスト・ライフ)」の一環として、日々の暮らしのなかでコンポストによる生ごみの堆肥化を実践する。

- ・第6回におこなう麦畑作りで使用する堆肥作り。(ダンボールにピートモス等の基材を入れ、ゴミの減量化と堆肥としての食べ物の循環、家庭での堆肥の作り方管理を学ぶ。)
- ・第1回で刈りとった麦を足踏む式脱穀機で脱穀。
- ・脱穀した麦のもみ擦り。
- ・唐箕を使っての脱稈(だっぶ)。

6月29日(土)《第3回》9:30~15:00

主テーマ: 廃棄すると海洋ゴミとなるペットボトルの活用法を考える。

- ・第4回の河川清掃で使用するイカダ制作。

25 7月27日(土)《第4回》9:30~15:30

主テーマ: 海洋ゴミが河川から海に流れ込んでいることを知り、その影響を知り海洋ゴミを減らす必要性を考える。

- ・森の学舎の前を流れている五十鈴川を、第3回で制作したイカダに乗っての河川清掃。
- ・箱メガネを使って、川虫や蝦・魚を網で捕り、川岸に生息している生き物のパネルを用意して、捕った川虫等の名前を覚える。川虫等は、名前を確認したら川に放す。

9月7日(土)《第5回》9:30~14:30

主テーマ：身近な自然について興味・関心を持ってもらうために、昆虫を観察し昆虫に触れ、名前や生態を学習する。太陽熱利用は、家庭でガス代・電気代・石油代の節約に役立つことをソーラークッキングで実感する。

・森の学舎周辺の土手や田んぼ畑で、指導者から昆虫の名前や生態等の説明を受けながら、昆虫採集（当プログラムでは写真を撮ったら直ぐに自然に戻す）や昆虫観察（必要に応じては昆虫を詳しく観察できるレンズ付きガラス容器に入れ）、昆虫写真撮影。
・太陽光を集めると高温になること（目玉焼きで実験）を知り、CO₂の発生が0%であることに気づく。CO₂の発生は、地球の温暖化防止には、重要なことを講話し、省エネの生活をするように意識させる。

※雨天時：樹木観察（お地藏さんの森に自生している樹木の特徴や名前を覚える。）

11月16日(土)《第6回》9:30~15:30

主テーマ：植物（麦）が、季節を永遠に循環（前世代から次世代に引き継いでいく）していることを実感する。

・畑の草取り
・ダンボールコンポスト堆肥と一緒に耕うん
・麦種を蒔く

5 ※雨天時：ネイチャーワーク（小枝・葉・ドングリ等で工作をして、身近にある自然物で楽しく遊べることを体験する）

12月14日(土)《第7回》9:30~15:00

主テーマ：沿岸部の海水がきれいだからこそ、パンの副材料の塩を海水から作ることができることを知り海の汚染について考える。

・海の汚染の8割は陸地からの影響であり、二酸化炭素や農業及び工業排水、未処理の下水や油、栄養塩類、堆積物、海洋ごみなどが陸地から海に流れ込み、悪影響を与えていることを学習する。
・ブロックを使って4カ所の釜戸の土台をグラウンドに作り、その上に簡易釜戸を設置。
・海水を簡易釜戸で沸かして水分を蒸発させ塩を採取。塩づくりの副産物であるにがりも採取。採取した塩をフライパンで炒めて乾燥。
・第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。

10 1月18日(土)《第8回》9:30~15:30

主テーマ：土地ごとに自然に存在する酵母、穀物や果実などについての酵母菌を培養する。

・陸地の生物多様性があるから酵母菌が多種に存在することを切り口とし、生態系の保護と回復、砂漠化への対策と森林の保護などを学習する。
・食品瓶に、パンで必要となる酵母を仕込む。（食品瓶は自宅に持ち帰り自宅で酵母を育てる）
・第6回で蒔いた麦芽が強い麦に育つための麦踏を行う。
・第2回で脱穀した麦を石臼で挽いて小麦粉にする。
・石臼での麦挽きで汚れた室内と石臼の掃除。

2月15日(土)《閉校(第9回)》9:00~16:00

主テーマ：自分たちで作り育てた麦や塩等を使ってのパン焼き
<ul style="list-style-type: none"> ・パン生地に練りこむバターを、生クリームと牛乳で作る。 ・作った塩と挽いた小麦粉と作ったバターでパン生地作り。 ・1次発酵を済ませて、想いおもいの形にパン形成。 ・パン焼きする順番に2次発酵して釜でパン焼き。 ・パン焼きの順番まで、感想文書き。 ・焼いたパンを試食。 ・修了証の授与。

他に、スタッフが各回に実施する内容の下見や事前準備等を下記の通り行います。

日付	内容
5/11(土)	麦畑周辺の草刈り、ネイチャーゲームの下見
5/19(日)	脱穀機と千歯こきの準備
6/22(土)	見本イカダの制作
7/13(土)	河川清掃の下見と昇降道の整備
8/31(土)	グランド一部の草刈、お地蔵さんの森の整備と樹木プレートの修理
9/6(金)	昆虫観察指導者の新開さんと下見
未定	海水汲み
11/9(土)	麦畑の事前耕うん
1/13(成)	石臼と石臼台の水洗い、石臼の目立てと廻し取っ手と臼上下をつなぐ芯棒の修理

- 5 (2) 休耕田復元プロジェクト※昨年度までは、「休耕田復活プロジェクト」と称していました。
「地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援」の一環として実施します。
子どもたちは、田植えを含む一連の米作りや、土づくりから始める野菜作りを通して、米作り
10 や野菜作りに対する興味・関心の高まり、年齢の異なる人との交流を持つことにより様々な立場
の人との適切なコミュニケーション力の取得、生産や収穫の喜び食料の大切さを実感し米一粒を
大切にす意識、農業に関する現代的な課題に関心を抱き、自分なりの考えを持つようになります。
他に、田んぼには、オタマジャクシやアメンボなど、都市生活において見かけることがなくな
った生物を、田んぼが育む生態系も学ぶこともできます。
昨年(2023年)度に復元した休耕田で、継続して米作り活動をしていきます。また、新た
15 に休耕田を復元させます。
耕作放棄地を復活させて里山の自然景観を守り、そして、大切なものがたくさんあって存在す
る魅力や価値を後世に繋いでいきたい、休耕田を復元させ無農薬で無機械による米作り体験の場
とします。
田んぼを復活させ無農薬で無機械による米作り体験の場として、一般参加者を募って、田植え、
20 年4回の草取り、稲刈り、脱穀、そして餅つきをして食べるまでの節目の作業を体験実施して行
きます。
田起こし前の用水路の整備と田んぼの草刈り、稲育成中での稗(ひえ)取り等の一連の田んぼ
作業を実施します。
- ・参加者(予定)：25人(県北地域の親子)
 - ・場 所：北郷黒木の休耕田、(仮称)そらいろのたね
 - ・助 成(未定)：高原環境財団助成事業または、ドコモ市民活動団体助成
- 25

日 程	内 容	予定参加者
4月30日 ～5月2日	草刈り・草取り 用水と畔づくり等の田んぼ復元作業	会員、ボランティア
6月1日 ～2日	田植え準備（耕うん、田起こし、代掻き）	会員、ボランティア
15日	田植え直前の準備	会員、ボランティア
16日	手植えによる田植え	一般参加者 会員、ボランティア
7月7日	草取りと環境学習（田んぼ観察を目的としたネイチャーゲーム） ※フィールドビンゴや音いくつ、動物交差点などを実施する	一般参加者 会員、ボランティア
21日	草取りと環境学習（田んぼの雑草のコナギを食べる） ※湯搔いて焼きそば等の具材にする	一般参加者 会員、ボランティア
8月4日	草取りと環境学習（田んぼの生態系調査） ※田んぼの生きもの調査を通して生物多様性を体験する	一般参加者 会員、ボランティア
25日	草取りと環境学習（案山子づくり） ※不要となった衣類等でリユースの実体験をする	一般参加者 会員、ボランティア
10月5日	稲刈り（稲掛け竿等）の準備	会員、ボランティア
13日	手鎌による稲刈り、レンゲの種蒔き	一般参加者 会員、ボランティア
11月2日	足踏み脱穀機・唐箕の準備	会員、ボランティア
3日	脱穀	一般参加者 会員、ボランティア
30日	餅つき道具（セイロ・羽釜・臼・杵）の準備	会員、ボランティア
12月1日	収穫祭（餅つき）	一般参加者 会員、ボランティア

※日程は、天候や米の発育等で変更する場合があります。

一般参加者が参加する活動は午前中（9：00～12：00）とします。ただし、脱穀（11月3日）は作業時間を多く必要とするため、終了予定を15時にしたいと思います。

5 稲刈り後の田んぼは保全のためレンゲ畑とします。レンゲを使つての活動を理事会で検討したいと思います。

古民家再生でのクラウドファンディングを実施していれば、収穫した米は寄付金への返礼品としたいと思います。収穫量によりますが、一部は参加者とボランティアで分配したいと思います。

10 (3) 地域コミュニティによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援

昨年度の引き続き、一般参加者や地域住民と一緒にあって耕作放棄された田畑を活用した米作りや野菜栽培などを通して考え、地球環境に負荷をかけないで自分たちにできる取組への気づきを促し里山や中山間地域の自然景観を復元し、その魅力を発信させていきます。その一環として「休耕田復元プロジェクト」事業を進めています。

15

- ・場 所：北郷黒木地区の耕作放棄地
- ・助成（予定）：連合愛のカンパ

20

耕作放棄地を田畑に戻すには、人手だけでは負担が大きすぎるため機械による作業も必要となってきます。そこで、マイクロシヨベルカーの活用が条件となります。九州ろうきんの「NPO事業サポートローン」でマイクロシヨベルカーの購入費用を借り入れています。その返済原資を確保するために、「連合愛のカンパ」の申請をしています。

25

大量の雑草を土にすき込むのは、かなり骨の折れる作業であるので重機を使用する必要あると思われます。土を深くから掘り返すと土中の環境が急激に変わって生態系が壊れてしまうので、ただ耕作放棄地を復活させるのではなく多様な生物が生息できる田んぼを取り戻すことが本来の目的でもあるため生態系が崩れてしまつては意味がないので、環境への影響が小さいマイクロシ

ベルカーによるすき込み作業を行います。

復元させた田んぼで環境学習などを実施するため、米の作付け面の周りにある畔を大きめに復元します。この作業も、マイクロシェベルカーを活用することになります。

- 5 次年度以降になりますが、原野は、実のなる樹木を植樹して作業体験農園として果樹や野菜を育て収穫することを進めていきます。将来的には、収穫した果実を加工して地域活性化となる地域独自の6次産業を実現させたいと思います。

2. 中山間地の荒廃した里山の環境保全再生事業

10 (1) 妖精の森

2009年から続けている森の学舎裏の放置されている竹林の一部を落葉樹の林に変えて行く活動は、地権者と正式に山林使用協定を結べない事情があるので、他活動で必要となる竹の伐採にとどめます。また、新たに生えてくる竹の除去は続けて行きます。

15 (2) お地蔵さんの森（森林と水辺の体験型環境学習の森づくり活動）

手入れが行われず放置されている里山と、その里山と隣接している五十鈴川支流のオモボリ谷と菅の谷の合流する沢（松瀬川と称す）を子供たちが入り遊ぶことができる森林づくりを2019年度から実施しています。

- 20 整備した里山と松瀬川、そして森の学舎を一体的に活用し、子どもやその保護者を対象とした森林の動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能を知るための体験型環境学習を実施するためのフィールドとして活用します。

また、作業スペースに活用できる廃道と樹木名プレートを探索する場所の草刈りを実施します。

3. 地域の自然環境などを理解してもらうための啓発活動

25

(1) 春の野草を活用した里山体験（春を楽しもう）

春になって野草の芽吹きに触れることで自然に対して興味・関心を高め、野草の名前を覚え食することで自然の恵みが身近なところにあることを確認します。この活動を通して自然環境を大切に思い守る意識の認識してもらいます。

30

- ・開 催 月：2025/3/23（日）
- ・参加者（予定）：子ども15人、保護者10人（子どもが過半数を超えること）
- ・場 所：森の学舎と周辺
- ・助 成：子どもゆめ基金（申請予定）
- 35 ・外 部 講 師：成迫平五郎氏（野草観察）

40

① 野草観察：指導者やスタッフと一緒に森の学舎と周辺を散策し、生息する野草などの説明を受ける。野草の名前や特徴を覚えることで、地域の身近な自然に対する興味・関心を高める。スタッフと参加者で知識を共有するだけでなく、観察中に話しかけながら交流を図り、屋外での活動となるため指導者の説明が十分に伝わるよう配慮します。

② 参加者で昼食作り：食べることができる野草を食べる分だけ摘んで調理する。野草を食べることで自然の恵みへの感謝の気持ちを認識する。調理それぞれに、スタッフを配置しスムーズな調理の流れに配慮します。

45

参加者の五感を使った活動とするために、受身の受講とせずスタッフと一緒に調理をして交流を図り印象を強く残すように配慮します。

4. 地場産業の振興、街づくり、人づくり

(1) 古民家再生

地域のサードプレイス（環境学習の教室、日常的に大人や子どもが集まる処、防災時の補助的な避難所、地域の農産物販売所など多様な利用方法があると思われます）として、美郷町北郷黒木にある築117年の古民家を再生したいと思います。

昨年度は、業者による躯体改修概算見積をおこないましたが、クラウドファンディングだけの寄付金額では、とても賄うことができない高額であったため実施できていませんでした。

この古民家は、柱や床などがシロアリ被害によって、家全体が歪んでいるので業者による家屋の躯体修復作業を施して、躯体修復が終わったらワークショップで床や壁などの施工を進めて行くことができます。家屋の躯体修復作業にかかる費用は、クラウドファンディングでの資金調達だけでなく何らかの公的な補助金を模索していきたいと思います。

古民家再生の予算案については、資金調達の目的がたって、クラウドファンディングをスタートする時点で、計画を立案して会員に提示します。

※サードプレイスとは、仕事に関わる「職場」やプライベートな「家庭」とは異なる3つ目の居場所を指す言葉です。ただし、それは単に居場所があればサードプレイスになるわけではありません。インフォーマルな公共の空間で、上下関係のない人々が自由に会話を交わすことができるという環境は、人々に自尊心を取り戻させたり精神的なゆとりを与えたりするのです。サードプレイスの代表例としては、ドイツの居酒屋やイタリアの食堂などであり、人々のコミュニケーション欲を満たす場所として機能しています。コミュニティーのような義務や権利が存在しないのもサードプレイスの特徴です。

5. 市民活動の活性化に関わる企画、コーディネート事業

地域の課題に対して何かの役に立ちたいと思い、地域活動に参画する意向のある人は増えてきています。そうした動きに対して行政も、地域の活性化、雇用の確保、行政サービスの補完等の観点で関心を持っています。しかし、意欲のある人や団体でも、具体的な始め方、仲間や協力者の見つけ方、必要な知識やスキルの身に付け方等、いくつかのハードルの存在が想定されます。従って、それらを克服し、参加意欲を実際の行動に結び付けていけるような支援の仕組みを地域に構築することの必要性があります。市民活動の活性化に関わる企画やコーディネート等、何らか携わることができればと考えています。

6. 活動の情報発信・啓発のための事業

活動を告知することで活動の参加者を募集し、活動の内容を情報発信することで子どもの森の活動への理解を通して、自然環境の大切さ、地域を良くするための協働への参画を促していきます。

(1) Webサイトの運営

子どもの森の活動と自然環境啓発等を、Webページにて発信していきます。また、Webページでは発信しづらい細かい情報は、FacebookとInstagramで発信していきます。

(2) 機関紙の発行

子どもの森の前年度活動と自然環境啓発等を、機関紙「子どもの森通信21号」を発行することで情報発信をします。

(3) 事業案内チラシの作成

宮崎県や関係行政機関等の後援を依頼して、それぞれの事業を開催する2ヶ月前までに、新聞社等へ参加者募集の記事依頼と、図書館や公民館等の公共機関へのチラシ配布とチラシ設置の依頼を行います。

7. その他目的を達成するために必要な事業

(1) ビオトープ

5 ビオトープは、ミニ田んぼ・水路・池とつながった一連の水辺環境で、森の学舎隣の地区集会場にある水タンクからオーバーフローしている水をホースで引いています（地区の集会場の水タンクには、谷沢の水をホースで注いでいる）。ビオトープの活用にあたり必要な改修改善を行な

っていきます。水辺に生息する草や水生生物は、人工的に持ってこず自然の復元力に委ねます。

四季をまるごと体験ecoスクールで、水辺の生きもの観察や麦作りを行い自然環境の観察等

を行います。

(2) 活動拠点「森の学舎」の活用と整備

2006年11月に、公募により門川町から譲与を受けた旧西門川小学校松瀬分校は、2008年度に、日本財団と連合愛のカンパからの助成金を受け、会員その他ボランティアによって修繕を進めてきました。また、ボーイスカウト等の団体を含めた一般開放、森林や環境等の図書や児童書・絵本を整備して環境文庫の設置などの整備を行なってきました。そして、2009年度は、セブン-イレブンみどりの基金と門川町まちづくりプレイヤー支援、連合愛のカンパからの助成を受け、五右衛門風呂小屋と釜戸小屋の製作と、薪ストーブの設置、環境関連図書の購入を進めてきました。

15 行政が絡んでいない民間団体での廃校活用は他に例がなく、森の学舎は廃校になった学校の先駆的な活用例として注目されています。森の学舎と周辺地域との関係も視野に入れ、環境問題を切り口とした地域コミュニティとしての役割など、廃校の更なる活用も目指していかなくてはなりません。

20 2010年度で、急ぎ必要な森の学舎の整備は終わったと思われます。これからは、どのような整備が必要かを検討しながらの整備を進めていきます。そのための資金として、特別積立金の設定をしています。森の学舎の開放と森の学舎で行なう環境学習の依頼があれば受入をしています。

25 一昨年（2022年）度は、老朽化した竈小屋と五右衛門風呂小屋を、日本郵便より「年賀寄付金による社会貢献事業助成」を受けて建て替えができました。また、五右衛門風呂2号小屋も会員によって建て替えが終了しました。

30 環境関連図書（環境文庫）の設置をしてから、16年が経過しています。その間、増えた図書の整備を行っていません。今年度は、蔵書している図書の整備を行えればと思います。

初夏と夏と秋にグラウンドと周辺の草刈りを実施します。

35 草刈り等の森の学舎整備と蔵書している図書の整備は、4/29～5/2、8/8、9、9/28、29でおこないます。

(3) 子どもの森が加盟する団体

今年度も引き続き「みやざき森づくりボランティア協議会」に、団体会員として加盟します。同協議会での総会や研修会への参加をすることで、同じ森づくりや環境問題に取り組んでいる団体との交流ができます。また、同協議会が開催する研修会では、森づくり活動への考え方や森林作業の学習等を学べます。宮崎県内の森づくりを実施している団体の相互協力と交流、森づくりの研修が、本協議会の活動の中心となっています。可能な限り協議会が開催する総会や研修への参加や協力を行っていきます。

(4) 黄色いレシートキャンペーン

45 黄色いレシートキャンペーン投函ボックスは、一昨年（2022年）度から、イオングループで1店舗のみの登録となったため「イオン日向店」にお願いしています。黄色いレシート発行の日の11日が土日または、祝日となる日を選んで、イオン日向店においてのキャンペーン協力に参加したいと思います。

(5) 理事会の開催

定期的に理事会を開催して、活動の詳細内容の決定や確認、次年度の活動計画等を議論していきます。

主 場 所：(仮称)そらいろのたね

時 間：19時30分から

日付(予定)：5/13(月)、7/1(月)、10/7(月)、2025/1/6(月)、4/14(月)

また、活動の連絡や確認事項だけの議題であれば、活動や各準備や下見の後に実施をしていきます。ただし、理事会開催の理事充足人数を満たしていた場合に限りです。

8. 助成について

今年度の活動への助成金は下表のとおりです。

助成名	助成元	助成事業	助成額	備考
子どもゆめ基金	国立青少年教育振興機構	四季をまるごと体験e c oスクール	620千円(確定)	
		春を楽しもう	120千円(申請予定)	2次募集で申請
高原環境財団助成事業	高原環境財団	休耕田復元プロジェクト	483千円(申請中) ※7月に採否決定	
ドコモ市民活動団体助成事業	モバイル・コミュニケーション・ファンド		510千円(申請中) ※8月に採否決定	高原環境財団が採択となったら辞退する
連合愛のキャンパ	日本労働組合総連合会宮崎県連合会	地域コミュニティーによる耕作放棄地の活用と生活困窮者の支援	800千円(申請) ※8月に採否決定	今年度と次年度の2年間で計80万円を継続申請する予定

9. 次年(2025年)度以降の活動

これまでのプログラム(自然体験活動)を継続実施することとしますが、川をフィールドとする活動は7月末から8月初めになります。川をフィールドにする活動が複数あると台風による川の増水や雨による延期に対応できないため、次年度以降も一つに絞ります。今年度は、四季をまるごと体験e c oスクールではイカダを使った河川清掃を実施するため「川をたのしく親しまう」は未開催とします。

森づくりは、「お地蔵さんの森」は、樹木伐採や沢への昇降道の整備が2011年度に終了しているため、自然体験活動でのフィールドとしての活動とメンテナンス的整備を実施して行きます。

「妖精の森」は、生えてくる竹の伐採を実施し、「子どもの森1号地」と「GOCANの森」は、経過観察をして行きます。

また、杉を伐採した跡地で広葉樹の植樹が可能な山があったら、宮崎県森林環境税の森林づくり活動支援を活用して、地主と協議を進めながら第五の森づくり活動も実施したいと思っています。

古民家再生は、資金が揃えば、業者による家屋修復は実施できると思いますが、ワークショップによる室内再生を今年(2023年)度中に完成させることは難しいと思われますので、次年度も引き続きおこなうことになると思います。

他に、将来の自然体験活動として、ネイチャー工作の一環となるコケ玉・樹木カレンダー・門松づくり、つる工作等の特色ある計画を練っていきます。

議案Ⅱ. 2024年度活動計画書(案)

2024年度 特定非営利活動にかかる活動計画書
(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

科目	金額		備考
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	63,000		12人×5,000、特別:3人×1,000
賛助会員受取会費	0	63,000	0人
2. 受取寄附金		70,000	イオン黄色いレシート、ろうきんNPO寄附金、個人寄附 他
3. 受取助成金等		1,623,000	子どもゆめ基金、連合愛のキャンパ
4. 事業収益		190,000	四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
5. その他収益		10	預金利息 他
経常収益計		1,946,010	
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	337,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
人件費計	337,000		
(2)その他経費			
修繕費	6,000		森の学舎、休耕田復元プロジェクト
諸謝金	79,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう
印刷製本費	35,000		ecoスクールチラシ印刷(業者)
広告宣伝費	44,000		春を楽しもう(KIREI)
旅費交通費	149,200		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
通信運搬費	15,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう
消耗品費	669,000		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト 他
損害保険料	41,500		四季をまるごと体験ecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト
減価償却費	355,244		マイクロシヨベルカー
その他経費計	1,393,944		
事業費計		1,730,944	
2. 管理費			
(1)人件費			
賃金(有償ボランティア)	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
旅費交通費	12,000		森づくりボランティア協議会の総会・研修の出席 他
通信運搬費	50,000		助成金申請・報告、事務局電話料、森の学舎携帯
消耗品費	1,000		文房具 他
修繕費	6,000		森の学舎
諸会費	3,000		みやざき森づくりボランティア協議会
会議費	5,000		理事会他
研修費	5,000		会員の各種研修参加
租税公課	3,000		印紙(労金NPOサポートローン、助成金申請)他
施設管理費	160,000		森の学舎(土地賃借料、浄化槽管理費、電気代) 他
雑費	5,000		昨年度子どもゆめ基金助成金減額
支払利息	15,000		マイクロシヨベルカー借入金
その他経費計	265,000		
管理費計		265,000	
経常費用計		1,995,944	
当期正味財産増減額		△49,934	
前期繰越正味財産額		1,837,728	
次期繰越正味財産額		1,787,794	目的積立1,000,000円含む

- 5 ※会費 正会員：5,000円(ただし特別正会員は1,000円) 賛助会員：5,000円(ただし特別賛助会員は1,000円)
特別正会員とは、社会に出る前の大学生や専門学校生と、同一世帯で2人以降の正会員で、総会での議決権など、通常の正会員と同じ権利を有します。特別賛助会員とは、同一世帯で2人以降の賛助会員です。
- ※目的積立：将来の大規模な森の学舎修繕に備えた積立をおこないます。現在、雨漏りがあるためシートで応急処置をしていますが、修繕費が認められる助成金等にて雨漏り修繕をしたいと考えています。その時に、目的積立を取り崩して自己資金部分に充当させます。
- 10 ※20名以上の参加者がないとボランティア保険の対象とならないため、一般参加者がいるプログラム(四季をまるごとecoスクール、春を楽しもう、休耕田復元プロジェクト)以外の活動への参加での事故やケガについては自己責任でお願いします。(ご自身の加入している損害保険での対応をお願いします)
- ※他に、古民家再生に係る収支が発生する場合には、補助科目(活動名)を増やして会計処理していきます。

《参考》

2024年度 事業別活動計画書

科目	ecoスクール	春を楽しもう	休耕田復元プロジェクト	地域コミュニティによる耕作放棄地の復元	森林整備	森の学舎整備(ピオトーブを含む)	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益									
1. 受取会費									
正会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	63,000	63,000
賛助会員受取会費	--	--	--	--	--	--	--	0	0
2. 受取寄附金									0
受取寄附金	--	--	--	--	--	--	--	70,000	70,000
3. 受取助成金等									0
受取助成金	620,000	120,000	483,000	400,000	0	0	1,623,000	--	1,623,000
4. 事業収益									0
自主事業収益	125,000	22,500	22,500	--	--	--	170,000	20,000	190,000
5. その他収益									0
雑収入	--	--	--	--	--	--	--	10	10
経常収益計	745,000	142,500	505,500	400,000	0	0	1,793,000	153,010	1,946,010
II 経常費用									0
(1)人件費									0
賃金	210,000	17,000	110,000	--	--	--	337,000	--	337,000
人件費計	210,000	17,000	110,000	0	0	0	337,000	0	337,000
(2)その他経費									0
修繕費	--	--	--	--	--	6,000	6,000	6,000	12,000
諸謝金	63,000	13,000	3,000	--	--	--	79,000	--	79,000
印刷製本費	35,000	--	--	--	--	--	35,000	--	35,000
旅費交通費	94,000	10,000	45,200	--	--	--	149,200	12,000	161,200
通信運搬費	10,000	5,000	--	--	--	--	15,000	50,000	65,000
消耗品費	290,000	42,000	320,000	10,000	3,000	4,000	669,000	1,000	670,000
諸会費	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
会議費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
研修費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
損害保険料	12,000	1,500	28,000	--	--	--	41,500	--	41,500
租税公課	--	--	--	--	--	--	--	3,000	3,000
施設管理費	--	--	--	--	--	--	--	160,000	160,000
広告宣伝費	--	44,000	--	--	--	--	44,000	--	44,000
雑費	--	--	--	--	--	--	--	5,000	5,000
支払利息	--	--	--	--	--	--	--	15,000	15,000
減価償却費	--	--	--	355,244	--	--	355,244	--	355,244
その他経費計	504,000	115,500	396,200	365,244	3,000	10,000	1,393,944	265,000	1,658,944
経常費用計	714,000	132,500	506,200	365,244	3,000	10,000	1,730,944	265,000	1,995,944
当期経常増減額	31,000	10,000	△ 700	34,756	△ 3,000	△ 10,000	62,056	△ 111,990	△ 49,934

5



2023年度総会



イオン黄色いレシートキャンペーン



事務局/森の学舎：宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字イカダ場 3412 番地 1
TEL 0982-63-0009 携帯：080-2696-5180
<https://www.kodomonori.info>
info20@kodomonori.info
facebook <https://www.facebook.com/npo.kodomonori>
Instagram <https://www.instagram.com/kodomonori.2003npo>
協働創出市サイト <http://dp25242621.lolipop.jp/kyoudou>